

生体基礎実習

Basic Physiological Practice

実習責任者：生理学 教授 幸田 和久

1. 実習概要・学習内容

将来、医師となるためには、医学的知識を駆使することにより情報を収集し、得られた情報を解析し、そして、適切な判断をする必要がある。そのためには自然科学の原理や原則を基礎として基礎医学を学ぶことにより得られる「科学的な事象の考え方」が肝要となってくる。すなわち、基礎医学を理解することが、のちの臨床医学を学ぶために必要で、そのためには自然科学的な事象の考え方を学び、基礎知識・技術の習得をすることが近道となる。それを助けるのが実習である。

2. 到達目標

- 1) 細胞の内外のイオンについて説明できる。
- 2) 電気素子の特性と電気回路のはたらきについて説明できる。
- 3) 可視光の性質、色の数値化、色覚について説明できる。
- 4) ヒトの可聴領域について説明できる。
- 5) 声の周波数特性について説明できる。
- 6) 放射線の特性、測定法の基礎知識について説明できる。

3. 学習上の注意点

自然科学の原理、原則を理解しておくこと。少なくとも高校生レベルの理科（物理、化学、生物）の知識は必須である。特に「生理のしくみ」「神経のしくみ」、および「医系自然科学」で学習した内容の中で、到達目標に該当する箇所については十分に理解していることが必要である。

4. 教科書・参考書

教科書

『2018年度生体基礎実習法』（聖マリアンナ医科大学生理学教室編）

5. 成績評価

1. 生体基礎実習の最終成績は、各実習のレポート評価の平均点と実習態度をもとに行う。また、「試験及び履修等に関する規定」の第13条4項に則り、欠席の割合を最終成績に反映させる。

2. 評価の前提は実習の出席とレポート提出である。合理的理由のない実習の欠席やレポート提出がない場合は、その実習の評価はゼロになる。
3. 遅刻 2 回で欠席 1 回相当とする。
4. 期限を過ぎたあとのレポート提出は、合理的理由がない限り受け付けない。つまり、レポート提出なしとみなす。またレポート作成において、他人のレポートをコピーしたことが発覚した場合は、コピーした者及びコピーさせた者のレポートの評点はゼロとする。
5. 合理的理由と見做されるには、それを証明する書類等（診断書、遅延証明書など）の提出が必要である。

評価項目	実施回数	評価割合	備考
レポート		90 (%)	
授業態度		10 (%)	

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
生理学	教授	幸田 和久	12:30-13:30	医学部 4 階生理学教授室	kkohda
生理学	教授	船橋 利也	12:30-13:30	医学部 4 階生理学教授室	toshiya
生理学	講師	藤原 清悦	金曜 12:30-13:30	医学部 4 階生理学教室	seitu
生理学	講師	小倉 裕司	月曜 11:00-13:00	医学部 4 階生理学教室	yuji_ogura
生理学	講師	藤岡 仁美	12:30-13:30	医学部 4 階生理学教室	fujioka
生理学 (物理学)	講師	高須 雄一	木・金曜 12:30-13:30, 17:00~18:00	医学部 4 階物理学研究室	ytakasu
生理学 (物理学)	講師	根本 幸雄	12:30-13:30, 17:00~18:00	医学部 4 階生理学教室	nemoto
生理学 (物理学)	助教	晴山 慎	12:30-13:30, 17:00~18:00	医学部 4 階物理学研究室	m-hareyama
生理学	助教	福島 篤	12:30-13:30	医学部 4 階生理学教室	a.fukushima
生理学	助教	黒坂 光寿	月曜 12:30-13:30	医学部 4 階生理学教室	kurosakam
生理学	助教	萩原 裕子	12:30-13:30	医学部 4 階生理学教室	hagi_h
生理学	助教	井端 啓二	12:30-13:30	医学部 4 階 生理学教室	ibata

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp が省略